

平成22年度砺波市保育所・幼稚園のあり方懇談会（第1回）会議録（要旨）

- 1 開催日 平成22年5月20日（木）午前9時30分～午前11時20分
- 2 場所 砺波市役所 3階 小ホール
- 3 委員出席者 大石委員、太田委員、沖田委員、金子委員、小西委員、澤田委員、四十万委員、高池委員、戸成委員、飛田委員
- 4 市側出席者 上田市長、白江教育委員会事務局長、大浦教育総務課長、間馬こども課長、岡田教育委員会課長保育所長、島田教育委員会課長幼稚園長、畑総務課主幹
安地保育幼稚園係長、坪田総務課行政係長、三部総務課行政係主任
- 5 協議内容
 - (1) 次第に従い、趣旨説明等の後、会長の互選及び副会長の氏名を行った。
会長 大石委員 副会長 高池委員
 - (2) 市内の保育所・幼稚園と現状についてこども課から説明を行い、意見交換を行った。
- 6 意見の概要 （㊦…委員からの意見等 ㊧…市側の回答等）
 - ㊦ 幼稚園の預かり保育の利用状況はどうなっているか。
㊧ こども園では利用率は高いが、その他の幼稚園では4～10人程度である。
 - ㊦ 幼稚園の教諭の配置基準は1学級35人以下となっているが、園児の多少に関わらず運用されているのはおかしい。
㊧ 砺波市の幼稚園規則では3歳児は1学級25人以下としている。
 - ㊦ 子育て家庭は核家族が増えてきていることもあり、保育所や幼稚園を大変頼りにしている。年度の途中に転居、転出、一人親になるなど、親の環境も変わること、年度途中に入りたいとの要望もあるが、受け入れの実態はどうか。
㊧ 3～5歳児は、受け入れが可能であるが、0、1、2歳児の受け入れは、保育士の配置や保育面積などの基準の面から、現状が一杯であるため受け入れが困難な状態である。

●㊦ 砺波市における待機児童の有無はどの程度か。

㊦ 砺波市における待機児童はゼロと報告しているが、0歳～2歳児は配置基準や施設基準により希望する保育所での受け入れに全て応えきれていない場合や家族構成や状況から入所をお断りしていることもある。そういった意味では、潜在的な待機児童はいるのではないかと考える。

●㊦ 保育所・幼稚園ともに正規職員の割合を増やせない理由は財政面なのか、人材不足なのか。また、職員の採用については、職員の年齢構成を勘案した採用としているのか。

㊦ 経費のうち職員の人件費は大きな比重を占めている。そのため基本的に担任は正規職員を配置しているが、そのサポートを嘱託職員で対応している。

正職員の退職による欠員は全て補充する対応としていることから、職員の年齢構成を特に勘案していないが、採用にあたっては、砺波市には保育士、幼稚園免許の両方の資格を持った者を採用している。

●㊦ 砺波市の小学校では、小1プロブレム（小学校に入ってからの問題行動等）をできるだけ起こさないように、就学前児童に対して夏休みなどに小学校の教諭が保育所で保育に携わるなどしている。

従前は、園長・所長と校長が面談して、子どもの問題について話し合いをしていたが、今は教諭が直接児童を見ることによってできるだけ早い段階で子どもを把握し、学校は楽しいところであると思わせて入学していただくよう努めている。保幼小の連携は国レベルでも重要なものと考えられている。

小1プロブレムとは...

小学校に入学したばかりの小学校1年生が集団行動が取れない、授業中に座ってられない、話を聞かないなどの状態が数か月継続する状態。これまでは1か月程度で落ち着くと言われていたが、これが継続するようになり就学前の幼児教育との関連や保護者の養育態度が注目され出した。

●㊦ 三位一体改革に伴う保育費用の一般財源化は市の財政を圧迫し、いずれ民間の保育所にもその余波がくることが心配である。一般財源化するということは、自治体の長の裁量が大きくあらわれるものと考ええる。

●㊦ 全職員に占める臨時職員や嘱託職員の比率についての意見があったが、臨時職員や嘱託職員だから保育の質が落ちるということはない。正規職員か臨時職員かの違いは、市の財政や、採用方針によるものであり、誤解のないようにしていただきたい。

●㊦ 子育ての基本は「家庭」であり、保育所や幼稚園はそれを補完するものである。

●㊦ 行政は親が希望する保育所や幼稚園について、希望される方の立場に立って考えてみる必要がある。保育所や幼稚園を選べないという事情も考慮する必要がある。

●㊦ この懇談会では、保育所・幼稚園が抱える課題を話し合うというが、行政が考える課題とは何か。それを聞かせてもらう必要がある。

㊦ はじめに、この懇談会は、子どもを取り巻く社会環境の変化のなかで将来的にどのような環境で子どもたちを育てていくかを目的にして設置しているものである。

課題としては、多種多様化する市民ニーズにどのように応えるか、どこまで応えることができるかが一つ。例えば、サービス業の方は、土日祝日、年末年始の仕事の場合がある。また、看護師や介護士の場合は交代勤務等もある。このような場合、日祝日、年末年始、夜間の保育需要もあるかもしれない。0.1. 2歳の低年齢児の受け入れの希望が以前より多くなっていることも保育需要のひとつである。

しかしながら、財政面、人的配置面、施設面からみても、行政はすべての需要に応えることは難しい。一方、サービスを充実すると子育ての力や家庭力の低下にもつながる。保育は家庭で行うことが基本であるが、その補完をどれだけ行政が行うのかというバランスが難しい。このような課題について、ご意見を伺いたい。

また、施設の設置状況に遍在性があるということも課題のひとつであるし、民間と公立、保育所と幼稚園の役割分担と連携をいかにすればいいかということも課題であるので、ご意見を伺いたい。

●㊦ 子育てボランティアで若いお母さんと接する機会が多いが、最近のお母さん達はコミュニケーションが不足していると感じる。本当は人に頼りたいけど頼れず、こもってしまっている人が多いと思う。虐待の背景にはこのようなことがあると思う。

グループで子育ての悩みを話し合う場を設けてチラシでPRするが、あまり効果が上がらない。口コミで来られる場合が多く、効果的な情報提供がないかを感じている。

- ㊦ 母子推進員として家庭訪問して相談にのろうとするが、「もうじき子どもを保育所に預けるから…」といわれ、子育てを保育所等に任せようとする雰囲気を読み取れる。若いお母さんは保育所に子どもを預けると安心できるという現状がある。
- ㊦ 支援センターでボランティアをしているが、お母さん達は子育てが辛いと思っているのではないか。子育ては一人ではできないので、最近のように核家族が増えてくると、「助けて」と相談することもできない。

自分自身たくさんの人に助けてもらったから楽しく子育てできたし助かった。「助けて」と言えない人が声を出せるようにしたい。
- ㊦ 以前県外に住んでいたが、砺波市は保育所と幼稚園のどちらでも選ぶことができるという素晴らしい環境である。この選べるという素晴らしい環境のことを市民自身が知らない。お母さんのライフスタイルによって保育所と幼稚園を選べるんだということをもっとPRすればよい。
- ㊦ こども園の形態について知りたい。
 - ㊦ こども園は0歳～2歳は保育園、3歳～5歳は幼稚園という形態をとっている。認定こども園のように、3歳～5歳が保育所か幼稚園かを選ぶという形態ではない。そのため、3歳になるとき保育所を選ぶ家庭は転園される。
- ㊦ 自分の子供を地元の保育所に通わせたかったが、定員等の関係で入所できなかった。他の地域の保育所を紹介していただいたが、上の子供と異なる保育所はいやだったし、送迎も大変であるので結局仕事を辞めてしまった。親としてはやはり、地域の保育所に通わせたいと思う。

しかしながら、庄川地区の保育所は規模が小規模である。小規模な保育所や幼稚園は行政効率が悪いことから市は「統合」を考えているのではないか。親としては、違う地域子どもを持っていくことに抵抗があるし、その地域ならではのつながりなくなるかもしれないことから「統合」反対である。

 - ㊦ この懇談会は、統合を目的として開催しているわけではない。将来にわたって砺波市の保育所と幼稚園がどうあるべきかを話し合う場である。統合反対のご意見については、委員のご意見として受け止めさせていただく。
- ㊦ 地域は保育所や幼稚園との交流が多く、子どもたちにとって、地域やふるさとを学ぶ場となっている。

- ㊦ 他市から転入された方からは、砺波市ほど子育てに適したところはないと良く聞く。これは子育て支援センターや保育所など、子育てをサポートする場がたくさんあることや自然環境が良いことも理由だろう。
保育所や幼稚園のことも大切だが、それに繋がる小学校などでも地域の人に関わる大切であり、地域と一緒に頑張って取り組んでいけば良い。

- ㊦ 子育ての上で家庭の保育力が重要であることはいうまでもない。これは保育所・幼稚園の充実とは相反するものがあり、そのバランスがとても難しい。このことから、今回は「市民の需要と問題点」について話し合いたい。